

青い森鉄道線青森開業準備協議会議事概要

日 時 平成 21 年 2 月 26 日（木）13：00～
場 所 ホテル青森 3 階「善知鳥の間」

【議題 1】

（1）報告事項

青い森鉄道線青森開業に向けた準備状況について

① 県の取組状況について

- ・ 鉄道資産の譲渡価額について

資料 1 に基づき説明

- ・ 国における検討状況について

資料 2 に基づき説明

- ・ 今後のスケジュールについて

資料 3 に基づき説明

② 青い森鉄道株式会社の取組状況

青い森鉄道(株)関社長から資料 4 に基づき説明

(説明内容)

青い森鉄道株式会社の関と申します。現在の取組状況について報告いたします。資料 4 をご覧ください。今年が開業一年前ということになります。これまで僅か 25.9 キロメートルの営業区間でしたが、青森開業ということになりますと、全長で約 122 キロメートル、これは、第三セクターの鉄道としては全国一の規模になると聞いています。また、従業員の数も現在の 42 名から、青森開業時には 200 名を超える規模になります。そういう意味では規模的にも、また、営業距離においても、単なる事業の拡大というよりは、新たな事業を開始、新しい会社となって再スタートするという気持ちで臨んでいます。

そこで、会社としては、これまでの青い森鉄道のイメージを一新して新しい会社として生まれ変わる、そしてそれを対外的にもアピールしていきたいと思っています。今日はそうした観点から、今、社員一丸となって取り組んでいる会社の新しいイメージづくりとしての C I 導入事業、それと営業面を中心とした新規事業について報告をしたいと思います。

資料の 2 ページ目をご覧ください。まず、会社のイメージを変えるためには会社の

中から変える必要があります。そこで、昨年の11月に社内に営業戦略プロジェクトチームを設置しました。若手の社員18名をメンバーとしてとありますが、18名といえば、当社にとってはほぼ若手全員ということになります。社員一人一人に営業の面、あるいはもっと経営者としての意識を持ってもらうためには、社員全員が参加するような形が望ましいということで、そういう形にしています。プロジェクトチームには2つのワーキンググループ、1つは「旅客収入アップワーキンググループ」、もう1つは「サービス向上ワーキンググループ」を設置しています。今この2つのワーキンググループにおいて、様々なアイデアが生まれています。その中で実行可能なものについては直ちに実行するという体制で臨んでいます。また、ここで練り上げたものにつきましては、3ページにあります。営業戦略プランということで取りまとめをしていきたいと、これは平成22年、開業の年の春頃には、戦略体系を構築して公表したいと思っています。簡単な戦略イメージを記載していますが、詳しい説明は省略いたします。

次に4ページをご覧ください。現在、会社ではC I戦略、いわゆるコーポレート・アイデンティティの導入を進めています。社員全員が一つの目標に向かってベクトルを合わせるためには、まず社員が青い森鉄道という会社の役割を再認識することが必要です。そしてその目指すべき方向を、外に対しても、社員全員がはっきりと言っていくといえますか、言うことができる、そういうことが必要です。こういった意識の改革がこれからの事業展開に当たって非常に大事だと思っています。このため、会社が目指すところのコンセプトを明確にし、そのイメージをロゴマークとイメージキャラクターとして一般に公募することとしました。現在公募中であり。コンセプトは、プロジェクトチームみんなで考えて、その結果、それを端的に表すものとして「わの鉄道」ということにしております。その青い囲みの中にありますが、私を表す「わ」、そして、和みや調和を表す「わ」、そして地域の皆様とともに歩む、車の両輪としての「輪」というものもありますが、あるいは手を繋いで「輪」になる、そういう「わ」を意味しています。

次に5ページになりますが、去る2月の6日から募集を開始しており、3月31日までを募集期間としております。一番下に募集状況とありますが、最新の数字で申し上げますと、昨日25日現在で181件となっております。募集開始からまだ20日も経っていないのですが、既に181件の応募ですから、あと一か月あります。募集期間ギリギリには大量に来るのではないかと大いに期待をしています。

次に6ページです。募集のスケジュールを記載しています。3月31日まで、こういう形で周知を図りながら募集をして、その後、応募作品の中から優秀なものを4点ほど選んで、その中から沿線住民をはじめとした県民による人気投票によって最終的に決定したいと考えています。その結果については、今年10月頃に開催する、開業1年前イベント、これは後ほどご説明を申し上げますが、そのイベント

トにおいてお披露目をしたいと思っています。

次に7ページですが、この募集のテレビコマーシャルを今流しておりますが、その構成案ですので説明は省略いたします。

次に営業面を中心とした報告となるわけですが、ワーキンググループにおいて検討されている新規事業等についてであります。8ページをご覧ください。まず、新規の定期券の開発ということで、一つは『学期定期券』。これは既に発売をしていますが、高等学校の1学期、2学期という学期の日程に合わせた定期券を発行しています。3学期から発売をしましたが、発売期間が1月5日から、3学期が始まったのが14日ですので、5日から14日の間に、人数的に決して多いとは言えませんが、19名の方に購入をしていただきました。この期間の定期購入者の約2割を占めています。4月から1学期が始まりますと、今度は学校で販売をしていきますので、より浸透していくものと思っています。次に、その下にあります『持参人式定期券』についてです。これは今年の4月から発売をしたいと思っています。これは定期を購入した本人でなくても、その定期を持っている人なら誰でも使えるという持参人式の定期です。先行事例として三陸鉄道とかいろいろなところで既にやっています。そういったことを活用しながら、通勤定期の新たな需要を掘り起こしていきたいと思っています。その一番下に付加サービスとありますが、温泉施設提携割引等と書いてあります。これは持参人式定期券だけの付加サービスではなくて、青い森鉄道の定期券を持っている人全ての人にこういう付加サービスを付けたいと思っています。これは4月からスタートしたいと思っておりますが、既に10カ所の温泉施設さんと提携をするということで、内諾を得ております。駅舎の方は、野辺地のまかど温泉、また、三沢の小牧温泉、南の方では岩手県の金田一温泉というところと提携をしていくことにしております。この提携先につきましては順次増やしていきたいと、ということで、青い森鉄道の定期券に付加価値を付けていきたいと思っております。

次に9ページであります。これから、八戸以北、青森まで延伸するわけですが、この延伸する沿線には本当にいろんな温泉施設があります。観光施設としても、また、日常の癒しといいますか、非常に魅力的な温泉施設がありますので、これを何とか取りまとめて一つの商品に仕上げていきたいと思っています。「湯けむり紀行」という名前を付けておりますが、なんとか青い森鉄道を使っている人達に新しいサービスを提供したいと思っております。既にこの地図の中に黄色で囲んであるところとは、提携するというので内諾を得ていますので、これもまた新しい商品として開発をしていきたいと思っています。右側の4番目、実施計画の検討とありますが、通勤通学者、温泉施設利用割引、それから沿線温泉の縦断ツアー、これも新しい商品として開発していきたいと思っております。それから温泉だけではなくて、例えば雲谷のスキー場、夜越山のスキー場、馬門のスキー場と色々なスキー場・スケート場があります。そういったところとの提携も温泉と併せて開発をしていきたいと

いうふうに思っています。

次に、最後になります。10 ページ目であります。今年 10 月頃に開業 1 年前プレイベントということで、青い森鉄道の情報を発信するイベントを実施したいと思っています。コンセプトとしては、「青い森鉄道が担う沿線地域・文化の魅力発信」、なんと申しますか、沿線の人達自らが地域の文化を再発見してそれを発信していくということをコンセプトにしています。詳しくは省略しますが、開催場所についてだけちょっと説明を申し上げます。まず、八戸以北につきましては、まだ今年 JR さんの線路でありますので、駅を使ってということは出来ませんので、三沢駅の近くの古牧温泉青森屋さんの敷地をお借りしてその中で実施したいということで、古牧温泉青森屋さんの方の内諾を得ています。それから以南の駅につきましては、これは当社の駅でありますので、八戸駅、剣吉駅、三戸駅を中心としたイベントを想定しています。

イベントの内容が 4 番にあります。まず沿線地域の食文化を発信するということを考えています。それから、鉄道事業そのもの、鉄道本来の魅力についても、鉄道に親しむ鉄道展みたいなものを開催して情報発信したいと。それから 3 番目、これは先程に説明したものと繋がりますが、ローカル温泉の魅力発信ということで、新しい魅力もこれから発掘していきたいと思えます。ミニ S L ツアーとかジオラマの模型展覧会の展示、あるいはイベント状況を動画で配信する、それと 6 番目に青い森鉄道駅舎リメンバー写真展とありますが、これはいろんな今八戸以南の駅にお邪魔して近くの人とお話をしますと、昔はすごく賑やかだったと、駅前の商店街も賑やかで、鉄道のお客さんもいっぱい乗っていたという話をしょっちゅう聞きます。それなら、そういう懐かしいその時代の写真というものをみんな持ち寄って、セピア色した写真かも分かりませんが、それを持ち寄って駅舎を利用した写真展をやろうと、そして昔を懐かしんでもらおうということで、これも今地域の人達に、写真を持っている人に提供をしてもらって展示したいということで準備を進めています。こういったイベントにつきましては 5 番目にありますが、各団体との連携が必要です。まず資金源としては、日本民営鉄道、いわゆる民鉄協会から助成していただくということで内諾を得ています。それから、鉄道博物館、これは埼玉県にあります。鉄道博物館の企画展示物、これの再利用ということで、提供していただくことで了解をいただいています。それから NPO ACTY とありますが、これは県の事業で今年度、青い森鉄道線を利用したいいわゆるツアーみたいなものを企画していただきましたが、非常に好評でした。これは乗った人が好評というだけではなくて、乗ってきた人を歓迎した各駅の周辺の人達、その人達からも非常に好評を得ていますので、これはなんとか継続イベントということで実施していきたいと。そのほか NPO 「ACTY」に限らず多くの地元の NPO の方々とこれから連携を図ってきたいというふうに思っています。青い森模型クラブのジオラマの提供とか、ある

いは五能線活性化クラブからミニSLの提供もしていただくことにしています。こういったイベントを計画しています。このイベントの実施に合わせて県あるいは沿線の市町村にもこの機会に是非一緒に開催できるものがあれば協力をお願いしたいと思っています。以上、簡単ですがご報告いたします。

【質疑等】

(出席者) 野辺地駅を中心としたイベントを今三つやっているんですよ。まず、夏に「停車場まつり」をやっています。それから鉄道記念日に因んで10月には「鉄道フェスタ」を、そして2月の雪の時期に「ランタン祭り」ということで、駅を中心とした場所でいろんなイベントをやっているわけでございまして、その町内、自治会でやったり、愛好者でやったりしている状況なんです。それで町からもちょっと、わずかですが補助金みたいなものを出してやっています。これ、どうです、今度青い森鉄道株式会社となった場合に、社を挙げてと申しますか、もっと規模を広げてこういうものやってみたらどうだろう。鉄道フェスタなんかは、昔の写真がすごいものがあります。ですから、今度はそういうことが野辺地町だけではなくて、やはりみんなで力を寄せ合って大きなものにしていけるなあと今直感した訳でございまして。来年になりますか、そういった場合にこれも一つ視野に入れて頂きたいなど、そう思っております。よろしく願いいたします。

(青い森鉄道(株)社長) ありがとうございます。是非一緒にやれるものがあれば提携してやっていきたいと思っております。うちの方の鉄道も、単に人を乗せるという鉄道というだけではなくて、情報の発信、文化の発信というものも、非常にこれから大事にしていきたいと思っておりますので、近いうちに是非ご相談にお邪魔したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(出席者) 二、三ちょっとお尋ねしたいと思っております。夢のある今の最後のお話は別として、その前に、この鉄道が持続可能といえますか、維持存続していくという基本的な問題がいくつかあると思うんです。先程の県の説明、ちょっと確認をしたいんですけども。JRさんとの協議で、文書を見ますと、「並行在来線分離に先立って駅舎を始めとする鉄道施設の幅広い修繕」というのがありまして、「その後の経営が順調にいくための努力や支援を最大限に行います」という内容になってますね。そこでですね、青い森鉄道の沿線の住民の4割は青森市民ですね。ですから、私どもはこの折角の鉄道を青森市民の日常的な足として上手に使うということができないかということを考えているわけです。高齢化は否応なしに進んでいきますし、これをまず日常的に使うとすれば、若い人もそうです、観光客もそうですけれど、やはり高齢者、一般の地域住民が多いと思うんです。ですから、車を自分で運転して回るのがイヤだという高齢者になりますと、こういう鉄道を足として使う、そうすればバリアフリーということが問題になるんだろうと

思います。ですから、全面的に「支援は最大限行います」、「駅舎を始めとする」など、ここで今の施設のバリアフリーを最低限やっていただく、最低限のバリアフリーをやっていただいて渡してもらうわけにはいかないものかと、そういうことが一つ感じるものですから、この辺のところをどうお考えになっているのかということが第一点です。それからもう一つは、利用者にとっては、やはりバリアフリーと同時にシームレス化というのが大事だと思います。ですからこの鉄道が八戸から浅虫温泉を通過して、そして現駅まで入るわけですから、新駅までなんとか乗り入れる方法はないのだろうかということが一つ。

それから最寄りの駅が離れておりますので、新野内、これは今調査費付けてやっていただきますが、上手く行けば経営分離されて一番早く使える駅は野内駅になるだろう、ということでこれは大変結構なんです、その後の筒井駅ですね、もう1個これがいつ頃いわゆるこの野内駅がオープンした後、引き続きの使える時期はいつ頃と想定されるものか、ということが第一点です。とりあえず、以上お分かりになったらお願いしたいと思います。

(並行在来線調整監) まず、一点目のバリアフリーをJRさんにやって貰えればいいんじゃないかというお話してございますけれども、駅舎のバリアフリー化につきましては、一般的に跨線橋へのエレベーターの設置、あるいはホームへのスロープなど、駅舎構造そのものに大きな改良を加えるという形になります。現在JRでは、幅広い修繕というふうに表現してはいますが、なんとか資産価額が上昇しないような形で幅広い修繕をして、こちらに渡すというスタンスをとってございます。バリアフリー化という形になりますと、通常であれば非常に大規模な改良という形になりますので、資産価額が相当上昇するという事になりますので、どの程度のものがJRさんにできるかというのは具体的に交渉していないので分からないのですけれども、そういうお話でもあるということでJRさんの方をお願いしていきたいなと思っています。ただ、現在バリアフリー法では、既存の施設については、1日5千人以上の旅客施設を重点的にバリアフリー化するという事になってございます。現在の東北本線では、八戸駅、三沢駅、野辺地駅、それから青森駅、これがバリアフリー化になっているところがございます。その他の駅舎ということになりますけれども、なかなか無人駅等もございまして、JRさんとしてどの程度やれるとか、ということもありますので、JRと協議して参りたいと思っています。

それからシームレス化ということでございます。新青森駅の乗り入れについては、これまでもJRさんに申し入れしてきております。ダイヤ編成等については、まだこれからの話でございますので、引き続き要請して参りたいと思っています。

それから先程ご説明申し上げました新駅については、どうしても工業高校の

開校という事情もございまして、野内駅を優先するという説明を申し上げましたけれど、我々とすれば、出来るだけ早く筒井駅についても着手したいと考えています。ただ、今の時点でいつ頃になるのかという話になりますけれども、いずれにしてもJRさんが経営を行っている期間はなかなか難しいということで、経営分離後、青い森鉄道線になった後速やかに着工して参りたいと考えてございます。

(出席者) ありがとうございます。私の言っている意味がよく通じなかったのではないかと思います。要は基準とか法律の問題ということでは決してございませんで、やはり、使う方が好んで使える日常的な足としての青い森鉄道になれないかどうかということが、その後愛されて、ずっと続けて使っていただけて、結果としてそれが収入に繋がってくる、維持存続に繋がると、こういう立場での私の話で、ですからそのためには、法律が5千人だからやらなくてもいいとか、既存のものがどうだからとか、そういう次元の問題では全くないわけですし、むしろ利用者の立場に立って、持続的に使っていただける、そういう立場に立ってこの鉄道をどう考えるかということであれば、やはりいけないんだろうと思います。ですから5千人どうのこうのとそんなもの関係ないのであってですね、むしろこれを維持存続して行きたければ、最低限何をしなければいけないかということもまず考えていかなければいけないのではないかと、いう趣旨で私は実は聞いているわけです。ですからそれを譲渡価額が云々なんていうのは、80億は決まったわけですから、100億プラスαのところではなんとかならないのかどうかということも含めて、私のこれは新しい発想ですので、これは交渉ごととしてあり得ないことではないのではないかと、いうふうに思うんですね。やった結果でどうなるかは分かりませんが、そういう構えを持ったっていいじゃないですかという、私の実はこれはアイデアです。

そのことと、あともう一つは駅の問題もですね、野内の駅が出来た後に、JRから青い森鉄道になってからと言いますが、やはりこれも交渉事ですから、野内の方は事前にJRさんの大変な協力で今着々と調査が進んでおります。これを今度認可申請しますよね、設計図を作って。そしてその後、今度は青い森鉄道になってからもう一回設計する、設計図書が出来たら改めてもう一回認可申請をします。そのことによってアイドルタイムがそこにまた出来てくるわけですよ。できれば認可申請をまずJRの方でやっていただければ、青い森鉄道の野内駅のものを、しっかりとしたものをまず入れて、プラスもう一つ筒井の駅がありますと、これは設計図書が出来次第出しますよと、いうことで条件付きで同時に認可申請をしておいておくという知恵があったっていいじゃないかと、これはJRとの十分交渉ごととしてやった上で腹合わせができればですね、そういうことでやると、認可申請での手続のアイドルタイムが少し短縮できるのではないかと。そうする

と、せめても野内駅が出来た 1 年後ぐらいにもう一つの駅ができると。こういうふうになりますと、それをアナウンスしておけるわけですから。今は野内だけでも次は筒井ですよと。1 年後に筒井ですよとアナウンスしておけばですね、客離れを防ぐことが出来るのではないかと私は思うんですよ。それともう一つは旧ヤード跡地ですから、これは今検討して一生懸命調査をしてそれなりの中味を付けようということになっていきますから、上手く行けば、ダン、ダン、ダンと三段ロケットですね。まず野内、翌年は筒井と、そしてその後はヤード跡と、こういうふうに行けば市民としては「そうか、そうか」と。こういう順序で来るんだなと。使いものになるなど。こういう心理的効果をちゃんとやって繋いでおいて、そしてそれを利用者を確認していくと。こういったようなことを戦略的に考えてものを組み上げていかないと、黙っておって待っていてもですね、来てくれませんし、このチャンスを逃したら、今度一回離れた心理をもう一回引きつけようなんていったら、なかなか容易じゃないと私は思うんですね。ですからさっきの若い人がいろんな知恵を出して大変いいアイデアがいっぱいでていますと、これは大変結構なんですけど、それよりももっと基本的に今申し上げたような戦略、戦術をもって、人の気持ちをしっかりとここに結び付けておくということをしなから、いろんなイベントも打っていくと、いうことを両方やらなくてはいけないのではないかと。いうふうに私は思うんですね。まあ、そういう感じで私は今発言しているつもりです。ですから、金科玉条で法律どうの規則どうのなんてものはもうかなぐり捨てて、やっぱり生き残っていくためにはどうするかということの視点で是非考えましょうよ。と思いますがいかがでしょうか。

(青山副知事) 市長さんが仰ることは、本当にその通りだと思います。我々もいろいろなスケジュールを組みながら進めてはいるんですけども、今のお話しは交渉事でもありますので、また JR の方にお話しさせて頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。

【議題 2】

(2) 報告事項

利活用推進のための検討会の設置について

資料 5 に基づき説明

【質疑等】

(出席者) 是非この検討委員会、そしてまた青い森鉄道株式会社のプロジェクトチームが連携をとって頂いて一つお願いをしたいなというのは、先般地元で街づくり懇談会、そしてまた地元の商工会の方々と懇談会をしました。若い人の要望だったんですが、是非電車に自転車を乗せて移動できる、これを実現できないものかと。

通学の部分、混雑する部分、課題はいっぱいあります。階段をどうするか、改札をどうするかという問題がありますが、これが実現すれば、間違いなく青い森鉄道の利用者の増、そしてまたCO2、環境の面においても非常に効果が出ると思いますし、例えば試験的に土、日、祝とか、そうすると親子で移動して、市町村行って、自転車で温泉巡りをしたり、史跡巡りをしたり、そしてまた自転車に乗って回って歩くと。これは非常に私は有効だと思っております。これを是非この検討委員会、またプロジェクトチームにおいて、出来ないのではなくて、実際に高崎の方ではサイクルトレインをやっているようでございます。これを是非、出来るためにはどうすればいいという方向で検討していただきたいという要望でございます。

(知 事) ご要望いただきましたが、関社長いかがですか。

(青い森鉄道(株)社長) 今お話しがあったサイクルトレインには二つのタイプがありまして、日曜祭日のいわゆるサイクルを楽しもうという時の列車として運行するものと、それから通勤・通学という毎日の生活の足として運行する場合の二つのケースがあります。収益に繋がるということであれば当然通勤・通学のサイクルトレインということになると思うのですが、是非検討はしていきたいということで、今でも検討はしているんですが、問題はうちの方に余裕のある車両が無いというのがありますね、どうしても自転車を積むために車両の改造が必要です。それと余裕車両が今のところ1台も無い。青森まで開業したときも、もう目一杯の車両でやっておりますので、これは資金の手当ても含めて、余裕車両ができれば、今はイベント列車一つ運行できない状態ですので、是非資金手当も考えながら、車両の余裕をつくりながら、もし出来れば今のサイクルトレインの運行というものを是非試してみたいと思っております。

(出席者) おそらく列車の整備などもあると思います。お金も無い青い森鉄道です。例えばJRさんから中古車を譲渡していただくときに、JRさんにそれを改造していただいて譲渡してもらう方法とか、いろいろそういうこともお願いしてみてもいいんじゃないかなと、こう思いますので。「ない、ない」だと結局進まないのかなというふうに感じますので、実現するためにどういうふうにして取り組むかということのを是非、我々も沿線市町村としても一緒に考えたいと思っております。よろしくお願ひしたいなど。

(知 事) 要望としていただいております。青い森として、要望としてそういうことをあげましたことをお忘れ無きよう。